

心豊かな「すてきさん」つくり ～ えがお・げんき・あいさつ～
かんがえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいっぱいがんばる子 いまいきと元気な子

ピーター先生に感謝の気持ちを込めて



開成町立開成幼稚園

たいよう通信

第10号

発行日：令和7年2月28日（金）

発行者：園長 杉山 孝史

参加型の保育参観

2月4日（火）、年長「わくわくフェスティバル」を開催しました。このイベントですが、昨年度までは「かいせいにここにかい」として、クラスごとの劇あそびを観ていただいていた。しかし、今年度は形式を変えて、子どもたちが普段の遊びの中で取り組んでいる様子を知っていただき、保護者の方々も一緒に楽しい時間を過ごしていただきたいとの思いから、参加型の保育にしてみました。



れんげ組
～ロボット王国で遊ぼう～



さくら組
～さくらぐみ電宮城～



ばら組
～わくわくどうぶつえん～

当日は、多くの保護者の皆さまに園へお越しいただき、子どもたちが工夫しながら準備してきたゲームで遊んだり、丁寧に作ってきた商品を買っていただいたりしました。子どもたちは、お母さんやお父さんと楽しいひとときを共に過ごせて大変嬉しかったようです。「とっても楽しかった」「また、やってみたい」など、子どもたちから前向きな感想がたくさん聞かれました。

開成幼稚園では、一人一人の主体的で意欲的な遊びと集団活動への参加を促すことで、生きる力の基礎となる「すてきさん」を育てています。自分のやりたいことにとことん挑戦できたという今回の経験は、子どもたちの自信とやる気につながったこと

でしょう。保護者の皆さまのご協力ありがとうございました。



年中さんのお話遊び

2月18日（火）、そう組によるお話遊び「3匹のこぶた」（写真上）、20日（木）はうさぎ組のお話遊び「おおかみと7ひきのこやぎ」（下）を保護者の皆さまに観ていただきました。



二つの作品とも、子どもたちがアイデアを出し合って、おとぎ話の世界をのびのびと表現していました。大きな歌声、ユニークなセリフ、大胆な動きなど、表現遊びのおもしろさや楽しさが話の中にたくさん詰まってい

ました。子どもたちが演じるかわいらしい動物さんたちに、会場から温かい拍手が送られていました。

また、子どもたちのお話遊びが終わった後、お母さん方による「ツバメ」の合唱が披露されました。両クラスとも、この日のために時間を作って練習を重ねてこられただけに、美しく心地よいハーモニーがゆうぎ室いっぱいに広がりました。やりきった思いからでしょうか、目を赤くされているお母さんもいられました。

今回のお話遊びをとおして、子どもたちは全身を使って表現する楽しさや友達と力を合わせる素晴らしさを学んだことでしょう。お話遊びを精一杯楽しんだ子どもたち、そして合唱を披露してくださった保護者の皆さま、ありがとうございました。

ようこそ うさぎさん



先日、待ちに待った新しいうさぎさんが幼稚園にやってきました。名前を「ちょこちゃん」としました。チョコレート色したチョコチョコ歩くかわいいうさぎさんということで、うさぎ組の子どもたちが命名しました。

早くも、子どもたちの人気を集めています。

先生が入れ替わった!?

開成幼稚園では、8月を除く毎月、その月に生まれた子の誕生日を祝う誕生会を実施してきています。(8月生まれの子は9月生まれの子と一緒に9月に実施)先週21日(金)、年少の2月誕生会を実施しました。年長と年中は学年全体で誕生会を行ってきていますが、年少は発達段階を考慮して、原則クラスごとに実施してきています。この日も、クラス別に2月生まれの子を学級の仲間全員でお祝いしました。



そのあと、この日はちょっとしたサプライズを学年で用意していました。各担任が別のクラスに行ってお友達に特技を披露するというものでした。みかん組へ行ったゆうこ先生は無色透明の水がジュースに早変わりするマジック①、いちご組へ行ったもえ先生は紙皿に描かれた動物の名前を言い当てるクイズ②、そして、ぶどう組へ行ったけいた先生は怪獣が登場するエプロンシアター③をお友達に見せました。

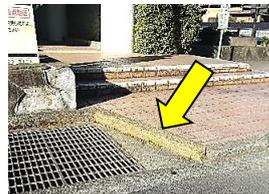
担任以外の先生とのふれ

合いを通して、いろいろな先生に慣れ親しみ、安心して次の学年に進級できるようにするための意図がありました。担任とは一味違った魅力をちょっぴり感じ取ることができた素敵な時間となりました。

子どもたちの安全を守る

2月20日(木)、開成町町民センターにおいて、第2回開成町学校・地域安全推進委員会が開催されました。この組織は今から20年前、子どもたちの防犯と交通安全対策を目的として設立されました。メンバーは、松田警察署の署員、自治会や婦人会の代表、交通指導隊隊長、青少年健全育成会会長、幼稚園・学校職員、PTA会長など事務局も含めて総勢で30人ほどになります。毎月1日と15日の朝、地域の皆さまにご参加いただいている登降指導もこの委員会の事業です。

この日の会議では、幼稚園や小中学校から提起した危険箇所について、今後の対応を確認することが話題の中心でした。開成幼稚園の関係では、どんぐり会館南側の花壇そばの段差の解消(左写真)、同じく道路と川の境にあるフェンス鎖の改修(右)など、主に5点です。詳しくは、近々掲載予定の町ホームページをご覧ください。皆さまにお願いですが、危険かなと思われる場所がありましたら幼稚園までお知らせください。よろしくお願いいたします。



ひだまり

仏さまの指

▼子どもたちは、遊びや体験をとおして

毎日様々なことを学んでいます。当然のことですが、いつも自分の思いどおりに事が運ぶとは限りません。時として課題や困難に直面することもあります。苦勞しながら自分一人の力で乗り越えられればよいのですが、解決の仕方が分からずその場に立ちすくんだり、あきらめてしまったりすることもあります。そのような姿を目にしたとき、大人は子どもの困り感を受け止め、何かしら支援の手を差し伸べるに違いありません。▼小学4年生で初めて自転車を買ってもらった私は、胸を躍らせた。しかし、一人で乗りこなす自信はありませんでした。父親は休みのたびに自転車の後ろを押さえてくれました。父親の支えと励ましのおかげで、ついに一人で自転車に乗れるようになりました。このような体験を通じて、あきらめずに努力することの大切さを学べたと思っています。▼明治生まれの教師で、国語教育の研究者でもある大村はま先生の著書『教えるということ』(共文社)の中に「仏さまの指」という説話が紹介されています。『あるとき、仏さまが道ばたに立っていらつしやると、一人の男が荷物をいっばいに積んだ車を引いて通りかかった。そこは大変なぬかるみであった。車はそのぬかるみにはまってしまい、男は懸命に引くけれども、車は動かさずじまい。男は汗びっしょりになって苦しんでいた。仏さまはしばらく男の様子を見ていらしたが、ちょっと指先で車にお触れになった。その瞬間、車はスッとぬかるみから抜け、男は車を引いて行ってしまった。男は仏さまの指の力にあずかったことを知らない。自分が努力して、ついに引き得たという自信と喜びで、その車を引いていった。』▼大人は、子どもたちが成功体験を積み重ねながら自分の力で成長していくことを願っています。必要な用具や環境を整え、さりげなくサポートできる大人でありたいと思います。

